

## ■令和5年2月1日 定例記者会見内容

- 1 日時 令和5年2月1日(水) 11:00~11:40
- 2 場所 市役所本庁舎3階第3委員会室
- 3 出席者 ○市長、総務部長、企画部長、地域創生部長、市長公室長、総務課長、  
企画調整課長、交流観光課長  
○酒田記者クラブ8社(読売新聞、山形新聞、荘内日報、河北新報、  
YBC、NHK、YTS、TUY)  
○コミュニティ新聞社、共同通信社(記者クラブの承認により出席)

## ■市長発表事項

- ・特に無し

## ■代表質問

### 1 庄内空港5便化決定を受けての所感と誘客策について

記者/庄内空港5便化を受けた所感と、新たな誘客策があればお聞かせください。

市長/まずはこの5便化、実は我々もかつて1回、期間限定で平成23年でしょうか、5便化があったのですけれど、その後、羽田空港のコンテスト枠の募集の際も、庄内便5便化ということで、声を上げた経緯もありますし、今回、期間限定でしたけれど、5便化出来たということで大変嬉しく思っております。

庄内地域のビジネスとか、観光需要を掘り起こす意味でも、この5便化というのは大変大きな意義があると、このように理解をしております。

従いまして、期間限定ではありますけれども、この間の利用の促進を図ることで、5便化の定期化実現に向けて、我々地域を挙げて取り組む必要があるだろうとこのように考えております。

地域を挙げた運動としては、庄内空港利用振興協議会という組織がありまして、事務局が庄内総合支庁になっているのですが、会長が私になっているものですから、まず庄内地域の皆さんが、5便化にあたって、飛行機を多く利用してもらえるような仕掛けを、しっかり作っていく必要があるかなということで、今、協議会の事務局とはいろいろな方策について協議をしている最中でございます。

3月26日に第1便ということなので、その時に歓迎式典的なものも行うというふうな話を聞いておりますし、それ以降についても、5便化によって搭乗率が落ちたということにはならないように、しっかり取り組んでいきたいなど、このように思っております。

もう1つは、それぞれの地域での取り組みということからすると、ビジネス客はおそらく結構利用してくれるだろうと思っておりますし、問題は観光客なのだろうと思っております。

そういう意味では、首都圏発だとか関西圏発とか、旅行商品の造成に向けて、旅行会社を訪問したりして、5便化期間中の旅行商品造成を、地域としてはしっかりお願いをしてまいりたいなど、このように思っております。

伺うところによると、ANAさんで、ダイナミックパッケージを検討しているということで、これは旅行者が航空券と宿泊先を自由に選んで組み合わせるパッケージツアーとい

うことのようにすけれども、こういったダイナミックパッケージで、例えば庄内空港便について割引クーポンを発行するというふうな措置などについて、庄内空港利用振興協議会で検討していると伺っておりますので、まず旅行者さんから、そのようなパッケージ商品、旅行商品造成をしっかりとやっていただけるように地域としても売り込みをしていきたいなと思っております。

また、酒田市としては、酒田DMOという組織が、出来上がって活動しておりますので、そこと一緒になって、関東エリアが中心になると思いますが、旅行代理店などを訪問して、庄内への誘客についてアピールをしていきたいと、観光PRをしていきたいと、このように思っております。

それから、この酒田DMOは、昨年台湾に行って、教育旅行等のアピールをしてまいりましたが、今回の5便化も踏まえて、酒田DMOでは、台湾の台中市の旅行業組合ですとか事業者プロモーションを継続して行ってきておりますので、是非、この5便化というものも1つ売りにしていただいて、この地域が来やすい観光地だということをアピールしていただければなど、このように思っております。

それから、市としてですが、今、令和5年度予算編成の山場で作業を一生懸命行っている最中なのですが、この5便化を見据えて、かつて1回行ったことがあるのですが、IT事業者限定で、これは企業誘致策、企業振興策の側面もあるのですが、そういった方々が航空便を使うときに、若干助成を行うような、そういった措置なども来年度予算の中でしっかり措置できたらなど、最後の詰めを行っている最中です。この事業は、ジェットスター・ジャパンが成田と就航した時に、一定程度の航空運賃の助成、あの時は5,000円ぐらいでしたが、もっと使ってもらえるようにということで組んだことがございました。

けれども、ジェットスター・ジャパン撤退とともに、コロナということもありましたので、1回中断をしておりました。

今回、5便化ということもありますので、もっともっと航空機を利用してもらえればということで、特にIT事業者支援という側面も含めて、そういった制度を少し措置してみたいと、市としては考えているところです。

**記者**／今の誘客策が具体化した場合というのは、その都度、若しくは歓迎式典のときにまとめてお知らせいただけるのでしょうか。

**市長**／式典のときは、庄内空港利用振興協議会ということなので、単なるイベントで多分終わりだと思います。

個々の支援事業については、酒田市の事業であれば、予算が決まったときにしっかりとそういったことも皆さんにお知らせをしていきたいと思っております。

## **2 いじめ重大事態再調査委員会の進捗状況に対する所感について**

**記者**／女子中学生の自死についてですが、今月、命日を迎えます。再調査委員会も、その都度、リモートで会見してもらったりして、進捗状況を我々も逐一教えてもらっていますが、その辺の受け止めを含めまして、改めて市長の所感をお願いいたします。

**市長**／改めてでありますけれども、今月の 12 日で 3 回忌を迎えるということでございました。

せっかくの記者会見の場ですので、改めてお亡くなりになった女子生徒のご冥福をお祈りしたいなと思いますし、ご遺族に対しましては、心から哀悼の意を表したいなと、このように思っております。

昨年の 10 月 4 日に酒田市いじめ重大事態再調査委員会を立ち上げまして、これまで 5 回の会合を開催、1 月 27 日に 5 回目の会合を開かれたというふうに伺っております。

私としては、順調に調査が進んでいるという受け止めをしております、今後も粛々と調査を進めていただいて、なるべく早めに報告書をまとめていただければなという思いを持っております。

これからも、いろいろな方々を対象とした調査が進められるということでございますので、本当に栗山委員長をはじめ、お忙しい方々の皆様ですけれども、リモートだったり、この酒田においでいただいたり、一生懸命調査をしていただいていることに対しまして、改めて感謝を申し上げます。

また、オンライン等で情報をしっかりマスコミの皆さんにも発していただいているということについても、感謝を申し上げたいと思っております。

**記者**／来年度というと市長選がありますし、体制の変化も年度が変わるごとにあるかと思えます。おそらく、この調査も年度を越えて結論が出るのかと思うのですが、どの程度位までに、ある程度の結論というか、結果を早く出してほしいというお話が最初にありましたけれど、今の見通しや市長個人としてのお考えをお聞かせください。

**市長**／前も、同じような質問がございましたので、そのときもお答えしたのですが、他の地域の例を見ると、1 年半ないし長くて 2 年位は掛かっているところもあるようです。

私としては、長くても 1 年半位で結論が出ればという思いはありますけれども、なるべくだったら、1 年位がいいかなという思いはあります。昨年 10 月に立ち上げましたので、そこから、1 年ないしは 1 年半という、令和 5 年度中には何とか結論まで持っていただければありがたいなと、これはあくまでも個人的な思いですけど、そういう思いを持っているところです。

**記者**／特段、見通しというか、そこは何も変わっていないのでしょうか。来年度中というのは当初からのスケジュールということでしょうか。

**市長**／そのとおりです。

**記者**／先ほどの話の中で、1 月 27 日に 5 回目の会合があったとのことでしたが、日付は、1 月 27 日でよろしかったでしょうか。

**市長**／はい。

**記者**／それは前におっしゃった先生たちに対する聞き取りということでしょうか。

市長／はい。

### 3 9月の市長選挙について

記者／市長選の日程も決まりましたし、改めて、出馬の意向をお伺いいたします。

市長／日程がいよいよ決まったかな、という感じで粛々と受け止めております。県議会議員選挙も、これから少し動きが激しくなっていくのだろうなど、そういうことがあったり、何よりこれまで正直言って、予算編成で忙殺されていまして、その他にも予算編成絡みで重要な酒田市の政策判断をしなければならない課題というのもありまして、あまりそのことで関係者と相談をしたりだとか、そういう時間が持てていないのです。

県議会議員選挙の動きも少し賑やかになってきたので、私としては、もう少し時間をいただきたいなというふうに思っています。あまりそこに惑わされて、市政がおろそかになるのも本意ではありませんので、少し時間をいただきたいということです。

場合によっては、3月、又は県議会議員選挙が明けたあたりぐらいまで少しじっくり時間を取って、いろんな方の話も聞いてみたいし、という思いで今いるところです。ことのほか、総合計画の決定以降、バタバタしていまして、じっくりそのことについて思いを巡らす時間的な余裕もないし、場も持ててないというのが正直なところなので、少し時間をいただきたいなということでは、今のところ、皆さんにお伝えできる内容がございません。

記者／県議選明けまで時間を待ってとのことでしたが、県議選の結果が出てからでしょうか。統一選が終わってからでしょうか。

市長／県議選が4月9日です。その辺は、場合によってはということです。いろいろ私どもの方の動き方にも関わってきますけど、その辺りを目途にいただければなど、記者の皆さんにはお願いをしたいなと思います。

記者／そうすると、3月議会ではそのような表明をする機会は、ないということでしょうか。

市長／ここから3月議会開会まで、1ヶ月ぐらいありますけれども、その間にどんな動きになるかも含めてですが、現状から見ると、少し難しいのではないかなというふうに思っています。

## ■フリー質問

### 1 酒田沖の洋上風力発電事業について

記者／洋上風力発電についてですが、この前の酒田沿岸域検討部会の方で、想定海域を正式に会議体として示したことになるのですけれども、市長はおそらく公式な報道ベースでしか知らないと思うのですが、それを受けてどのように感じていらっしゃいますか。

市長／スタンスとしては、遊佐町沖の進み具合のことがあろうかと思えます。

酒田港が立地している酒田市としては、この洋上風力の事業が進むのであれば、なるべく早く進めていただいて、基地港湾の指定を酒田港にさせていただくことによって、この地

域への経済的な波及効果は期待できます。

よく国土交通省さんがストック効果という話をされます。高速道路が繋がるということが分かると、企業がいろいろと立地したり、ストック効果が生まれるよという話ですけれど、同じように、洋上風力発電というのは、もし前に進めば、そして酒田港が基地港湾ということになれば、ある意味、経済波及効果、ストック効果がどんどん目に見えて出てくるだろうなど、思っています。

洋上風力のエリアとして、酒田市沖と遊佐町沖で、この2つがセットで前に進むということが、この地域の経済活力を強める大きな要因にはなってくるので、なるべくスピード感を持って、山形県に対しては、この事業化に向けて進めていただければなど、そういう思いを持っております。

まずは、遊佐町沖が促進区域に指定されて、その後、期間を置かず、酒田港が基地港湾になると、同時進行で酒田市沖もさらに進んでいく。こういう流れでこれから進んでもらえると、酒田市の地域経済にとってはプラスになってくるのではないかなという、そんな受け止めです。

エリアについては、以前も想定でいろいろな議論がされたこともありましたが、粛々と受け止めたところでございました。

## 2 庄内空港5便化について

**記者**／先程質問の出た庄内空港5便化についてですが、これは、2、3年前に、庄内空港利用振興協議会と全日空さんと、羽田空港のコンテスト枠があって、最終的には、県は山形空港の方を選定した形になったわけです。それが確か、更新で今年の秋かなんかに、もう一度あると思うのですが、そこについて、酒田市としてということもそうですし、庄内空港利用振興協議会の会長としてのお立場として、どのような対応を考えていくのかお伺いします。

**市長**／そこはぶれていなくて、前回は、確か庄内空港利用振興協議会の会長は鶴岡市長さんだったので、私は構成員としての立場でしかなかったのですが、5便化にして欲しいと、それはコンテスト枠であろうと、そうでなかろうと、ANAさんにはずっとお願いをしてきた経緯もありますし、おっしゃる通り、コンテストの時は、庄内を挙げて、経済界も挙げて、県に要望したのですが、県は山形空港に手を挙げたということでございました。

その時に、ANAさんの受け止めとしては、自分たちも一生懸命そういうことを望んでやろうとしたのだけれど、県が手を挙げないことには何ともならないということもあって、我々としては、大変申し訳ない思いをしつつ、ただ、その後、コロナがありましたので実質的にはあんまり影響はなかったという状況の中で、今回、ANAさんが5便化をしてくれました。

アフターコロナを睨んで、そういった措置をしてくれたということは、大変ありがたいなと思っていますし、ANAさんに対しては本当に感謝を申し上げたいと思うのですが、

我々としてはやはり、5 便化を常態化していきたい。その意味では、まずはコンテスト枠ということについては、以前よりも増して、私が会長になったということもありますが、強く山形県には要望していきたいなと思っております。

前回のコンテストは本当に残念だったのですが、やはり今回この期間限定ではあるけれども、これだけニーズがあるのだということを、県に対してアピールする一つの材料になるので、そういう意味でも、利用者をどんどん増やすことによって、5 便化に繋げるという動きをしていきたいと思っております。

前回と個人的には全く考え方はぶれていなくて、コンテスト枠がもしあって、募集されるのであれば、前回以上に、山形県から庄内空港 5 便化への手上げをしっかりといただけるように強く要望していきたいなと思います。

### **3 酒田沖の洋上風力発電事業について**

記者／洋上風力発電ですが、事業化の想定海域が示されたのですけれども、先ほど市長は、エリアについてはそういうものかなあ、というような受け止めだとの話でしたけれども、遊佐町沖の計画では、地域団体が、離岸距離について少し近すぎるのではないかと、いろいろそういうことを含めた問題点を指摘して活動しているのですけれども、最近中国なんかだと、沖合 100km で水深 100m ぐらいのところに建てたり、そういう計画が出てきたりとかしているみたいですよ。

ヨーロッパだと陸地から 22.2km 以上、それから中国でも 10km 以上離さなければいけないというような、そういうふうな形で、国の方で離岸距離について定めています。

その辺、日本は、再エネ海域利用法を基本にやっているわけですがけれども、日本ではそういう基準がないわけです。

東京タワー位の風車が 1 キロ～5 キロくらいの間に建つわけですよ。風車の高さ 320m とかというような計画もあり、それが 30～40 基建つというふうな。

どのような影響があるかというのは全く分からないわけです。超低周波音や、それから生態系にどういう影響を与えるかとか。漁業者さんは、漁がどうなるのだろうという懸念の声なんかはあるのです。

できるだけ県には早く事業を進めて欲しいというように、今おっしゃいましたが、そういった地域住民というか、景観も含めて、景観は全く変わるわけです。そこも含めて、市長はどのようにお考えなのでしょう。

市長／個人的には、あまり近いところに巨大なものが建つというのは、あまり好ましくないという、私も自分自身ではそう理解しています。ただ、感覚的な話であって、どのくらいの距離のところに、どのぐらいのものが建って、どういう影響を与えるのか。

先ほど、景観だとか、生態系だとかと話ありましたけれども、酒田市沖については、そういうのはこれから議論になってくるのだろうなと思いますし、しっかりやらなければいけないだろうと思っています。

その中で、私も、示されたその条件のもとで、これをどう捉えるかということについて

て、県なりに意見を言う機会が多分出てくるのだろうと思います。

そういった段階では、例えば、環境審議会とか景観審議会とか2つの審議会を持っていますので、皆さんの意見も参考にしつつ、市長としての判断はしていかなければいけないのかなという思いです。

全て経済波及効果が生まれるから、何でもかんでも受け入れオーケーだという意識は全くありません。

経済的な効果という面は、秋田でもかなり実証済みだと出ています。ただし、自然だとか景観とかの影響については、しっかり住民のコンセンサスも含めて議論をして、検証して総合的な判断をすべきだろうというふうに思っております。

そこは、全く無視するつもりもないですし、それは平等に評価をした上で、市としては、もし判断を求められれば、そういう判断をしていくのだろうなというふうに思います。

あくまでも、この事業を進めるかどうかの決定権限が市にあるわけではないので、そこは意見を言う立場として表明していけるのですが、それをどう受け取ってもらえるかについては、これは私の権限外の話かなという理解をしています。

ただ、しっかりとした議論は必要だという認識は、前と変わってはいない訳です。

ですから、あまり近いのは私も嫌です。先程、300メートルの風車が、沿岸から近いところに建てられるという話がありましたが、それは、この庄内、酒田の市民の皆さんにとってはどうかということでは、やはり議論した上で判断すべきかと思っています。

新聞報道で、日本の排他的経済水域内に洋上風力発電の施設を設置できるというような話が出ていましたので、日本でもそういう動きがひょっとしたら出てくるのかもしれないです。だからといって、今の計画が、それを見越して無しにしようという話には多分ならないと思いますので、この計画は、そのまま粛々と進んでいくのだろうなと思いますし、浮体式も含めてということになるのかもしれない。

起こした電気を陸に持ってくるのは大変です。送電網とか、いろいろな課題はあるのだろうな、と受け止めています。やはり、余計に離れれば離れるほど、送電線につながるためのケーブルの敷設とかの事業費は、膨らんでいくのでしょうから、そういったことも含めて、今後の議論がどういうふうな展開になるのか、少し見守っていききたいなど、そんな思いで今いるところです。

**記者**／そうすると、今のお話ですけれど、離岸距離については、現状の今回示された想定海域で、市長としてはまず、個人的にはあんまり近いのは嫌だけれども、この案で致し方ないだろうと、そういう理解でよろしいですか。

**市長**／検討部会での案という話なので、そこに私どもの思いとか、そういったものが入ってはいないわけなので、検討部会で示された案は尊重するという意味で、先程、粛々と受け止めるという話をしました。

でも、一定の離岸からの距離が、陸側の一番近いところにつけられるよりだったら、一番遠いところに作ってもらった方が有難いなという、そういう思いは持ち合わせていますが、今の範囲のことについて、特にそのことが、けしからんとか我々が言う権限もありま

せんし、そこはこのような想定で進めるのだなという受け止めをしたところです。

**記者**／浮体式という話が出たのですが、確かに浮体式については、今、開発も進んでいるみたいですが、それは待てないだろう、ということですか。

**市長**／待てないと思います。まだ、その効率性だとか、安全性だとか、まだ、未解決の課題がかなりあると思います。

九州あたりでは確かにやっていますが、離岸距離が近いのです。それを沖合に出せば出すほど、いろいろな課題も出てきます。特に、この地域の冬場の荒れ具合というのは尋常じゃないので、課題はまだまだあるのだろうと理解をしております。

## ■その他

- ・特になし